

コロナ禍における日本語コース完全オンライン化の試み

ー 「まるごと日本語中級 (B1) コース」での実践を例にー

三宅絵梨・兼行めぐみ・信岡麻理

1. はじめに

国際交流基金ソウル日本文化センター (以下、JF ソウル) の日本語講座 (以下、JF 日本語講座) は、2002年に JF ソウル設立と同時に在韓日本大使館公報文化院から引き継がれる形で開講し、今年20年の節目を迎える。開講当初は上級の日本語学習者をターゲットとしたコース⁽¹⁾のみを設置していたが、その後、徐々に対象レベルを拡大し、JF 日本語教育スタンダード (以下、JF スタンダード) 準拠のコースブック『まるごと 日本のことばと文化』 (以下、『まるごと』) の導入を機に、入門から上級までのレベル (A1~C1) のコースの設置に至った。

韓国における日本語学習者の特徴は、中級以上の高い日本語レベルに達する学習者が多い点にあり、JF 日本語講座においても初級のコースから始めて中級、上級へと上がっていく学習者が少なくない。また一般的に初級以降、学習者数が先細りすると言われている中、JF 日本語講座の中級コースのクラス数は初級コースのクラス数とほぼ同じであり、本講座において「まるごと日本語コース」⁽²⁾の中級レベルはメインのコースの1つとなっている。

2019年後期まで対面で行われていた JF 日本語講座は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2020年後期より全面オンラインで運営されている。本報告では、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりオンライン化が図られた JF 日本語講座について、「まるごと日本語中級 (B1) コース」 (以下、「まるごと中級コース」) での実践を中心に報告を行う。

2. 「まるごと中級コース」について

JF 日本語講座の「まるごと中級コース」は、1年を前期・後期 (前期: 3月~6月、後期: 9月~12月) に分けた2学期制である。1学期間の授業時間は、週1回3時間、全12回 (約3か月) で、定員は20名である。1つの学期に違う時間帯⁽³⁾で複数のクラスを開講している (ここ数年3クラス)。学習内容と進度は全クラス同じである。

2.1 シラバスと概要

「まるごと中級コース」の主教材は『まるごと中級1 (B1)』、『まるごと中級2 (B1)』である。同テキストは表1のとおり、各9つのトピックで構成されている。

表1 『まるごと中級1、2 (B1)』の構成 * 「T」はトピック

『まるごと中級1 (B1)』				『まるごと中級2 (B1)』			
T1	はじめての人と	T6	マンガを読もう	T1	どんな人?	T6	これが欲しい!
T2	おすすめの料理	T7	武道に挑戦!	T2	富士登山	T7	お気に入りの映画
T3	私の好きな音楽	T8	便利な道具	T3	健康的な生活	T8	私の街の交通機関
T4	温泉に行こう	T9	伝統的な祭り	T4	舞台を見るなら	T9	忍者、侍、その頃は…
T5	最近どう?			T5	身近なニュース		

「まるごと中級コース」では、2冊のテキスト、『まるごと中級1 (B1)』、『まるごと中級2 (B1)』を前期・後期で交互に使っている。各学期4つのトピックを取り上げ、4学期(2年間)で2冊の内容をほぼ網羅するカリキュラムを組んでいる。学期はA、B、C、Dの順で進み、2年ごとに繰り返される。例えば、シラバスBの学期に受講を開始した場合、C、D、Aの順で学習が進んでいく(表2)。受講生はどの学期からでも受講を開始することができ、クラス内には新規と継続の受講生が混在している。1学期ごとにコースの終了を迎え、所定の修了要件⁽⁴⁾を満たした受講生には、学期ごとに修了証が授与される。コースを修了し、かつ担当講師が十分な日本語力に達したと判断した場合、次期の「おすすめコース」として中上級レベルの受講が提案される。中上級レベルへの進級は2冊のテキストを終える(4学期受講し終える)前であっても、受講生に十分な日本語力があると判断されれば可能である。

表2 「まるごと中級コース」の学期ごとのシラバス * 「T」はトピック

<1学期間>	<1学期間>	<1学期間>	<1学期間>
【中級1】シラバスA	【中級2】シラバスB	【中級1】シラバスC	【中級2】シラバスD
T1 はじめての人と	T1 どんな人?	T2 おすすめの料理	T2 富士登山
T3 私の好きな音楽	T4 舞台を見るなら…	T5 最近どう?	T5 身近なニュース
T4 温泉に行こう	T6 これが欲しい!	T6 マンガを読もう	T7 お気に入りの映画
T8 便利な道具	T8 私の街の交通機関	T9 伝統的な祭り	T9 忍者、侍、その頃は…
終了・修了	終了・修了	終了・修了	終了・修了

シラバスA

3. 「まるごと中級コース」のオンライン化

2019年後期まで対面で行われていたJF日本語講座は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2020年前期の全面休講措置を経て、2020年後期の再開(対面)を目指し準備を進めていた。しかし、状況の改善は期待できないとの判断から、急遽、講座開講1週間前にオンラインでの実施を目指すこととなった。なお、ここでのオンラインとは対面授業をそのままオンラインで行う同期型(ライブレッスン形式)を指す。また、オンラインシステムはZoom (<https://>

コロナ禍における日本語コース完全オンライン化の試み

zoom.us/) を利用した。

オンライン開講までの1週間、受講申し込み者への連絡や事務的な対応、講師への連絡・調整などに追われ、実際のところシラバスや授業内容の見直しを行う時間の余裕は全くなかった。そのため、教材に関しても対面授業で使用していたものをそのままオンライン授業で使用するほかなく、オンライン授業に適したシラバス（学習進度、活動内容）の再考や教材（パワーポイント教材、配布資料）の改訂には全く手が付けられないまま授業最終日まで講座を走らせざるを得なかった。そのため、2020年後期のオンラインによる「まるごと中級コース」は多くの課題を残すこととなった。

3.1 2020年後期のオンライン授業で見えた課題

2020年後期は表2のシラバスCに当たる学期であった。『まるごと中級1 (B1)』、『まるごと中級2 (B1)』のテキストは、「準備」「PART1 聞いてわかる」「PART2 会話する」「PART3 長く話す」「PART4 読んでわかる」「PART5 書く」の6つのパートで構成されているが、「まるごと中級コース」では、『まるごと中級1 (B1)』のテキストを用い、表3のシラバス詳細のとおり授業を行った。

表3 2020年後期「まるごと中級コース」のシラバス詳細 *「T」はトピック

シラバスC (『まるごと中級1 (B1)』使用)						
回	学習内容			回	学習内容	
1		オリエンテーション 準備 PART1 聞いてわかる		7	T6 マンガを 読もう	準備 PART1 聞いてわかる PART2 会話する
2	T2 おすすめの 料理	PART2 会話する PART3 長く話す		8		PART3 長く話す PART4 読んでわかる PART5 書く (*宿題)
3		PART3 長く話す PART4 読んでわかる PART5 書く (*宿題)		9	T9 伝統的な 祭り	準備 PART1 聞いてわかる PART2 会話する
4	T5 最近どう?	準備 PART1 聞いてわかる PART2 会話する		10		PART3 長く話す (*一部宿題) PART4 読んでわかる PART5 書く (★扱わず)
5		PART3 長く話す PART4 読んでわかる (*一部宿題) PART5 書く (*宿題)		11	口頭テスト	
6	ゲスト授業			12	フィードバック・修了式	

オンライン授業で散見された課題は大きく2つに分けられる。まず、対面授業と比べて進度が遅れがちになるという点である。「まるごと中級コース」の授業では、例えばPART2の「会話する」の場合、ロールプレイなど受講生同士がペアになって練習をしたり、文法・文型の穴

埋め問題の回答を互いに確認したり、ロールプレイを行う前に教科書のスクリプトの内容をグループで確認し合ったりする時間がある。オンライン授業でこれらの活動を行う場合、Zoomのブレイクアウトルーム機能⁵⁾を利用するのが一般的であるが、受講生をオンライン上の各ルームに移動させたり、講師が受講生の様子を見て回ったり、活動の最中に講師が受講生にフィードバックをしようとする場合、講師はひとつひとつのルームを訪ねては移動するという操作が必要である。教室で同様の活動を行う場合（同時に複数のペア・グループに指示を出したり、振り向いてすぐにフィードバックしたりできる）とは状況がかなり異なる。また、各トピックの冒頭の「扉」ページにはトピックに関する質問項目があり、学習を始める前に学習者のスキーマを活性化するための大切な時間となっている。その際、講師と受講生、あるいは受講生同士が互いの答えや考えを共有しながら授業を進めていくが、そのような場面ではオンライン特有の微妙な時間差の影響もあり、発言権が取りにくかったり、互いにテンポよく話せないことが多くある。さらに、教室ではアイコンタクトや手を向けるなどの動作で発言すべき人を即座にクラス全体に示すことができるが、オンラインでは発言者を毎回指名しなければならない。

もうひとつは、対面授業で行っていた活動の中に、オンライン授業に向くものと向かないものがあるという点である。例えば、PART3の「長く話す」では、前準備として、談話構成などを考えながら長く話すためのメモを作成する活動が組み込まれている。対面で授業を行っていた時には5～10分ほどの時間を取ってメモを完成させる作業を教室で行い、その際、講師は教室を回りながら受講生の質問に答えたり、アドバイスをしたりしていた。また、受講生同士が話しながら活動できるパートでもあった。しかし、オンラインでは受講生の手元を見ることができないなどの制限があり、個別にアドバイスを行うことが難しい。そのため、受講生が下を向き黙々と課題に取り組む作業は相互作用が生まれにくく、非常にもったいない時間になってしまう。

オンラインでの開講が既に決まっていた2021年前期のJF日本語講座では、これらの課題をどのように解決していくか検討が重ねられた。次節では、シラバスの再考と授業実践において修正と工夫を行った点を詳しく述べる。

3.2 オンラインに適したシラバス・活動内容の再考

2020年後期の課題をもとに、2021年前期は準備段階でシラバスと活動内容の見直しを行った。2021年前期では表2のシラバスDで授業を行うこととなったが、対面とオンラインとでシラバスにどう変更が加えられたか、対面で行われた2018年後期のシラバスとともに表4に示す。

まず、3.1で述べた課題のひとつ、進捗については学習の分量を減らす方向で調整を行った。これまで1学期4つとしていたトピックを受講生の興味・関心、難易度、トピックの重なりに

コロナ禍における日本語コース完全オンライン化の試み

配慮しながら3つに絞った。対面時の4つのトピック（T2、T5、T7、T9）から3つのトピック（T2、T5、T7）を選んで2021年前期のシラバスを組むこととした。

次に、読み書きなどの活動を含め、全てのパートを授業中に行うには時間が足りないため、授業内で扱う活動と宿題にする活動の振り分けを行った。その際、3.1で述べたオンライン授業に適する活動かどうかの観点から、例えば、PART3「長く話す」のメモを書く活動や、PART4「読んでわかる」の読解の部分は、授業で扱う活動としては優先順位を下げ宿題にすることとした。「★」印のあるパートは一部を事前の宿題とした活動である。

表4 2018年後期（対面）と2021年前期（オンライン）のシラバス詳細 *「T」はトピック

【中級2】 シラバスD				
回	2018年後期（対面）		2021年前期（オンライン）	
1		オリエンテーション 準備 PART1 聞いてわかる		オリエンテーション／Padletの練習（自己紹介） 準備 PART1 聞いてわかる
2	T2	PART2 会話する PART3 長く話す	T2	PART2 会話する PART3 長く話す★
3		PART3 長く話す PART4 読んでわかる PART5 書く（*宿題）		PART4 読んでわかる★ PART5 活動（Padlet） 「おすすめスポットを紹介しよう！」★
4	T5	準備 PART1 聞いてわかる PART2 会話する	T5	準備 PART1 聞いてわかる
5		PART3 長く話す PART4 読んでわかる PART5 書く（*宿題）		PART2 会話する PART3 長く話す★
6	ゲスト授業			PART4 読んでわかる★ PART5 活動「これはだれのニュースでしょう？」★
7	T7	準備 PART1 聞いてわかる PART2 会話する	ゲスト授業	
8		PART3 長く話す PART4 読んでわかる PART5 書く（*宿題）		準備 PART1 聞いてわかる
9	T9	準備 PART1 聞いてわかる PART2 会話する	T7	PART2 会話する PART3 長く話す★
10		PART3 長く話す PART4 読んでわかる		PART4 読んでわかる★ PART5 活動（Padlet） 「映画のレビューを書こう！」★
11	口頭テスト			
12	フィードバック・修了式			

1トピックのそれぞれの授業で、シラバスの項目に沿って授業を円滑に進めるために講師と受講生が行った作業や活動は表5のとおりである。まず、PART3「長く話す」は、導入からメモを書く前の導入を1回目の授業内で行い、メモを書く部分を宿題とした。そして、メモを見ながら話す練習と実演の部分を2回目の授業で行った。3回目の授業で本格的に扱うPART4の「読んでわかる」も同様に、導入部分や読む際のポイントの確認を2回目の授業で行い、読解部分は宿題、フィードバックを次の時間にクラス全体で行うという流れを作った。

また、オンラインに適したコースデザインを目指し、シラバスの調整だけでなく、対面の時には行っていなかった新しい活動も取り入れた。PART5「書く」は従来、受講生がテーマ・課題に沿って何らかの文章を書くという宿題をし、紙あるいは電子ファイルで講師に提出、それを講師が添削して返却するというものであった。書いたものを受講生間で共有したり、それについて話したりコメントしたり、その後の活動につなげるということは行っていなかった。2021年前期のオンラインでの授業ではPART5の「書く」活動を発展させ、書いたのちにクラス全体で共有したり、まとめの活動を取り入れるなどした。具体的には、Padlet (<https://ja.padlet.com>) を使った活動である。次節でその詳細を述べる。

表5 1トピックの授業（3回）の流れ

回	シラバス項目	[講師] 導入・指示	[受講生] 宿題
1	準備		
	PART1 聞いてわかる		
2	PART2 会話する		
	PART3 長く話す *メモを見ながら練習→実演	PART3 長く話す *導入・宿題指示	PART3 長く話す *メモを書く
3	PART4 読んでわかる *読解フィードバック	PART4 読んでわかる *導入・宿題指示	PART4 読んでわかる *読解
	PART5 活動 (Padlet) *全体共有・まとめ [★3]	PART5 活動 (Padlet) *導入・宿題指示 [★1]	PART5 活動 (Padlet) *記事を投稿する [★2]

3.3 Padlet を使った活動

Padlet はひとつの画面に複数の人が同時に文章を書いたり、動画や写真を貼り付けたりすることができるオンラインツールで、グループワークやアイデア共有に適している。また、数あるオンラインツールの中から Padlet を選んだ理由は、SNS やインターネットサイトの場面を想定した活動を行う際、実物に比較的近いレイアウトで活動が行えるからである。受講生間で

コロナ禍における日本語コース完全オンライン化の試み

記事・投稿の共有ができ、コメントなどのやり取りも可能で、使い方も非常にシンプルである。クラス内のみでの共有が可能なためプライバシーも守られ、ポートフォリオとして残せるという点でも便利である。2021年前期の授業では Padlet を取り入れた活動を表 6 のような流れで行った。表 6 の Step 1 から 3 は表 5 の★1～3 の部分である。

表 6 Padlet を使った活動の流れ

回	Step	授業・宿題の別	活動内容
1	Step 0	授業（オリエンのみ）	Padlet の練習（自己紹介を投稿）
2	Step 1	授業	次の授業の活動内容の説明、宿題の指示
	Step 2	宿題	Padlet への記事の投稿
3	Step 3	授業	Padlet に書いた記事の共有、コメント、質疑応答

Padlet を使うにあたり、PART5 の「書く」活動にスムーズに入れるようシラバスと活動内容にいくつか工夫を凝らした。まず、Padlet に不慣れな受講生がいることを想定し、学期初回の授業で Padlet に自己紹介を書く活動を取り入れた（表 6 の Step 0）。その際、自己紹介の例を講師が Padlet に事前に作成しておき、「何をすればいいのか／どうすればいいのか／完成形がどんなものであるか」が分かるよう、講師の例を見せながら説明を行い、入力・投稿の練習を一度その場で行った。

学期初回の授業を除いては、各トピックでは表 6 の Step 1 から Step 3 の流れで活動を行った。PART5 の活動の 1 週間前となる 2 回目の授業では、活動の内容をパワーポイントで示しどのように宿題（Padlet に入力・投稿）をすればいいのか伝える時間を確保した（表 6 の Step 1）。併せて、Padlet への投稿を宿題とした（表 6 の Step 2）。3 回目の授業では、Padlet に書かれている内容を共有する時間を取り、受講生が他の受講生の投稿を読んだり、コメントを書き込んだり、「いいね」ボタンを押したり、さらに投稿について補足の説明を口頭で述べたり、質疑応答の時間を設けるなどした（表 6 の Step 3）。書くだけで完結しない SNS 本来の機能（情報発信、共有、交流、意見交換）に近い学びの場を提供することができた。2021年前期は、以下 2 つのトピックの PART5 の活動で Padlet を活用した。

- トピック 2 「SNS などで友達におすすめスポットを紹介しよう！」
- トピック 7 「SNS に映画のレビューを書こう！」

図 1 は 2021 年前期、トピック 2 の PART5 の活動で実際に受講生が投稿した Padlet である⁶⁾。

図1 受講生が Padlet に投稿した記事



3.4 受講生の評価

2021年前期の「まるごと中級コース」の受講生17名を対象に、コース終了後、アンケートを実施した。コース全体についての項目に加え、今回は初の試みである Padlet を使った活動についても評価を聞いた。

コース全体の満足度、および Padlet を使った活動の満足度はともに、「大変満足している」「満足している」で100%であった (表7、表8)。Padlet を使った活動のよかった点では、最も多かったのが「クラスメイトと意見や情報の共有ができた」(14名)、次いで「クラスメイトとの交流ができた」(8名)とあり、活動が受講生間の情報共有や交流の機会につながっていたことが分かった。また、「最新のアプリ (Padlet) を使って楽しく学べた」(7名)という回答もあり、新しく取り入れたオンラインツールであったことから受講生の反応を心配していたが、前向きに楽しみながら新しいことに挑戦してくれていたことを知り安堵した。さらに、自由記述欄に「通常の進度だと4トピックでしたが、今学期は3トピックに減り、教科書だけでなく関連した内容について深く勉強できてよかった。特に、Padlet が楽しかったし、他の人が書いたものを見てとても役に立った。(筆者訳)」、「授業進度がゆっくりになり、今学期は授業を受けるのに負担がなかった (筆者訳)」というコメントもあり、オンライン授業に適したシラバスとコースデザインの再考という試みにおいても一定の成果があったと受け止めている。

表7 受講生評価①「コース全体の満足度」

大変満足している	満足している	どちらでもない	あまり満足していない	満足していない	回答数
11 (65%)	6 (35%)	0	0	0	17

表8 受講生評価②「Padletを使った活動の満足度」

大変満足している	満足している	どちらでもない	あまり満足していない	満足していない	回答数
11 (65%)	6 (35%)	0	0	0	17

表9 受講生評価③「Padletを使った活動のよかった点（複数回答可）」

クラスメイトと意見や情報の共有ができた	14
クラスメイトとの交流ができた	8
最新のアプリ（Padlet）を使って楽しく学べた	7
その他（すぐにアップロードした他の人の文章を見られていい）	1

4. おわりに

2021年前期の「まるごと中級コース」におけるオンライン授業の試みは一定の成果と評価が見られたものの、依然課題が残されている。例えば、ICTに苦手意識のある受講生の心的負担・物理的負担を考慮しなければならない。今回はPadletの使い方を事前に丁寧に説明するなどし対応したが、限られた授業時間の中でその時間を捻出するのは容易ではない。

また、語学学習に関して、対面授業とオンライン授業を学習の定着度や運用力の伸びの面から比較した例も共有され始めている。対面とオンラインとでは様々な点が異なるが、オンライン授業においても対面授業と同じ成果（定着度、運用力の伸び）をつい追いついてしまう講師の姿勢については柔軟さが必要であり、今後、講師側にも学びの場がもっと提供されるべきである。

よかった点としては、対面ではソウル近郊の学習者にしか門戸が開かれていなかったJF日本語講座が、オンライン化されたことにより韓国全土から受講申し込みがあったことである。平等な機会と多様な選択肢の提供を目指すわれわれにとって非常に嬉しい現象である。

最後に、開講から20年、何らかの形でJF日本語講座の運営に携わって来られた全ての方にこの場を借りて敬意を表したい。今後、ポストコロナ時代、次の5年、10年を見据えた方針を検討する時期が来た時、JF日本語講座の在り方を考える上で、またそれぞれの時代に合った変化を遂げていくために、本報告がその道標としての役割を果たしてくれることを期待している。

〔注〕

- ⁽¹⁾ 「上級会話コース」「時事日本語コース」「翻訳コース」「映画・ドラマコース」「WEB サイトコース」「日本文化コース」など
- ⁽²⁾ JF 日本語講座において『まるごと 日本のことばと文化』をメイン教材とするコース
- ⁽³⁾ 昼と夜のコースがあり、昼は午後2時から午後5時まで、夜は午後7時から午後8時半まで（夜のコースのみ週2回）の時間帯で開講
- ⁽⁴⁾ 出席率70%以上を満たし、口頭テスト、課題、平常点の総合評価で一定の基準を満たすこと
- ⁽⁵⁾ 参加者を少人数のグループに分けそれぞれのルームで活動（グループワーク、ディスカッションなど）が行える Zoom の機能
- ⁽⁶⁾ 受講生の名前を削除するなど処理を行ったものを掲載

〔参考文献〕

- 国際交流基金 (2016) 『まるごと 日本のことばと文化』 (中級1 B1)、三修社
国際交流基金 (2017) 『まるごと 日本のことばと文化』 (中級2 B1)、三修社
国際交流基金 「JF 日本語教育スタンダード」
<<https://jfstandard.jp/top/ja/render.do>> (2021年8月18日)